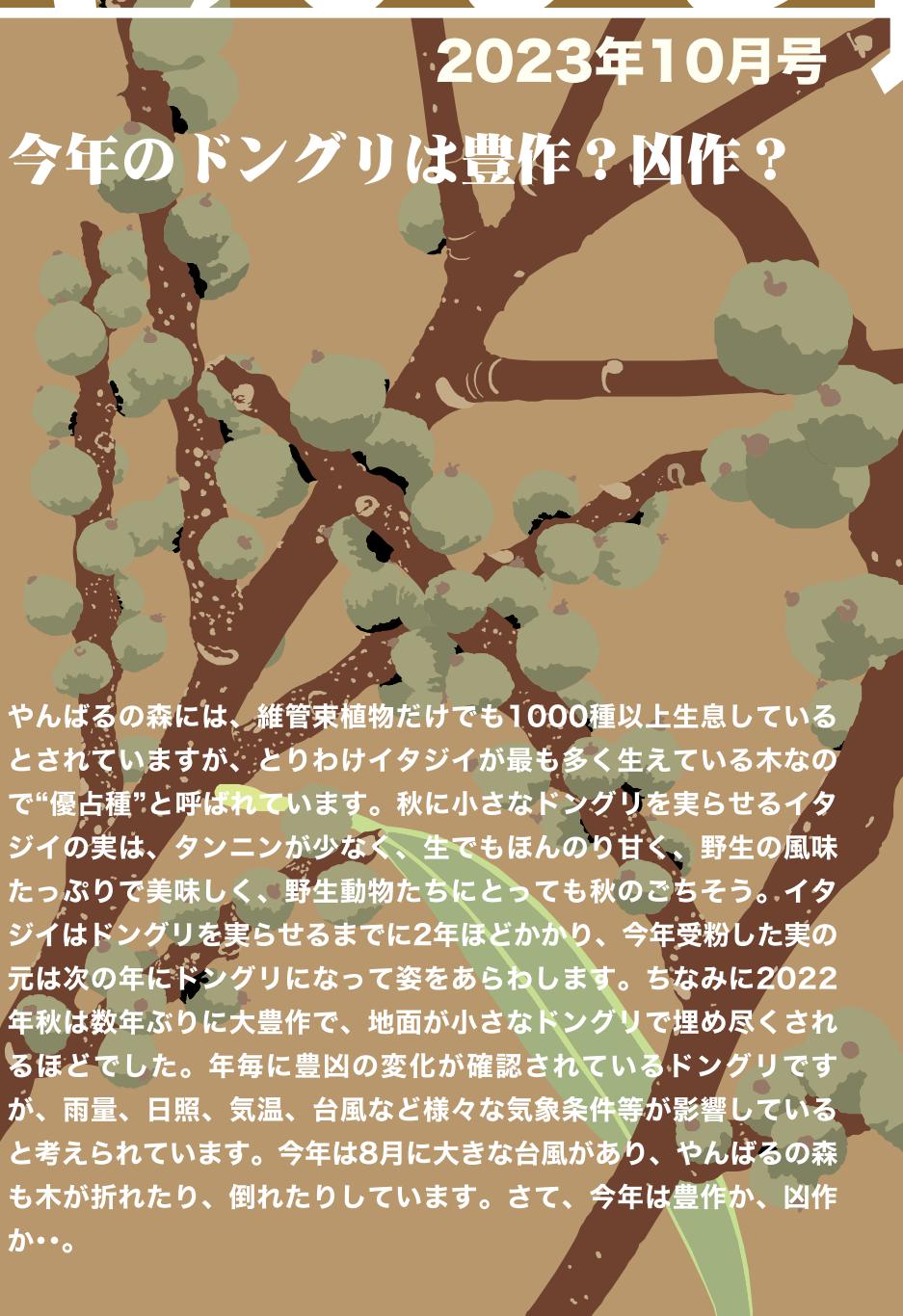


やんばる季節暦 通信

2023年10月号

今年のドングリは豊作？凶作？



やんばるの森には、維管束植物だけでも1000種以上生息しているとされていますが、とりわけイタジイが最も多く生えている木なので“優占種”と呼ばれています。秋に小さなドングリを実らせるイタジイの実は、タンニンが少なく、生でもほんのり甘く、野生の風味たっぷりで美味しい、野生動物たちにとっても秋のごちそう。イタジイはドングリを実らせるまでに2年ほどかかり、今年受粉した実の元は次の年にドングリになって姿をあらわします。ちなみに2022年秋は数年ぶりに大豊作で、地面が小さなドングリで埋め尽くされるほどでした。毎年豊凶の変化が確認されているドングリですが、雨量、日照、気温、台風など様々な気象条件等が影響していると考えられています。今年は8月に大きな台風があり、やんばるの森も木が折れたり、倒れたりしています。さて、今年は豊作か、凶作か…。

秋を告げるタカの渡り



アカハラダカ

朝鮮半島などで繁殖し、冬越しのため東南アジアなどへ渡る小型のタカ。琉球列島が中継地となっており、毎年9月中旬頃に空を舞う姿が見られます。アカハラダカの渡りで有名な名護の嘉津宇岳では、多いときで1,000羽以上の飛来が確認されることもあります。昨年9月25日に国頭村森林公園でも100羽ほどの群れを観察することができました。9月中旬の早朝、見晴らしの良い山間部の小高い場所で、アカハラダカの渡りが見られるかもしれません。現在、国頭村内で観察できる場所探しの最中です。



サシバ

本州などで繁殖し、冬越しのため東南アジアや南西諸島等へ渡ってくるタカ。国頭村では9月末頃から空に舞う姿が見られ、まさに秋の使者。沖縄県内に留まり冬を越す個体も多くおり、昔から馴染み深い鳥です。寒露の頃に渡りが本格化するため、この頃に降る冷たい秋雨は「タカのシーバイ」と呼ばれ、ハブが出現する気温と重なることから、ハブ注意の喚起もなされます。サシバは地域によっては大量に捕獲された時代があり、タカジューシーとして貴重なたんぱく源とされた暗い歴史もありました。

調査の密かな楽しみ

私たちがフェノロジー調査で大切にしていることは、できるだけ生きものの「初認」と「終認」をおさえることです。例えば、秋のサシバの渡りはじめと終わり、春にいつ頃まで姿が見られるのか。植物のツワブキでは、つぼみ、開花、花終わり、結実、実終わり、といった移り変わりを記録していきます。この記録の積み重ねをしていくことで、フェノロジーの変化が見えてくると考えています。そして、その時に楽しみながら、初認を誰よりも早く見つけること。「今日、アカショウビンの鳴き声を聞いたよ！」「自分は○月☆日に聞いたよ！」などと競い合ったり…

9月中旬頃になると、そろそろサシバが渡ってくるなあ…といつい空を見上げてしまします。今年のサシバの初認はいつになるだろう…

鳥の鳴き声や咲いている花など、五感を通して四季の移り変わりを感じとれるようになると、毎日がちょっと楽しくなりますよ♪



タカの渡り観察会



10月8日（日）
講師：渡久地豊さん
工房リュウキュウロビン
長年やんばるで野鳥の調査を続けている渡久地さんをお招きして、タカの渡り観察の魅力やポイントを教えていただきました。

カエル観察会



12月頃
講師：千木良さん
宜野湾博物館副館長
長年やんばるでカエルの調査を続けている千木良さんをお招きして、カエル観察のポイントを教えてもらいます。最新のカエル研究のお話も聞いてみましょう！

地球が沸騰?! どうなるこれからの沖縄

講演会やんばる Science Café

11月11日（土）10時30分～12時

講師：沖縄気象台気候情報官（沖縄気象台）

沖縄にも大きな被害をもたらした台風6号は記憶に新しいのではないでしょうか。気候変動は他人事ではありません。気候のプロ、沖縄気象台の気候情報官をお招きして、気候変動問題の基本の“キ”や沖縄ではこの先どうなるのか、どうすべきなのか、根掘り葉掘り聞いてみましょう。



一般社団法人
やんばるビジョン

〒905-1411 沖縄県国頭郡国頭村字辺土名272番地
info@yambaruvision.org
<https://yambaruvision.org>
<https://www.facebook.com/yambaruvision>

